

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
103	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
<p>Evaluating risk factors and possible mediation effects in posttraumatic depression and posttraumatic stress disorder comorbidity.            心的外傷後うつ病と心的外傷後ストレス障害（PTSD）の共存症の危険因子と介在因子の評価。</p>	
<b>執筆者</b>	
Chiu S, Niles JK, Webber MP, Zeig-Owens R, Gustave J, Lee R, Rizzotto L, Kelly KJ, Cohen HW, Prezant DJ.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Public Health Rep. 2011 Mar-Apr;126(2):201-9.	
<b>キーワード</b>	
心的外傷後うつ病 心的外傷後ストレス障害（PTSD）、飲酒、現地到着時間、消防士、9.11、ワールドトレードセンターWTC、	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b>            9.11 のワールドトレードセンターWTC へのテロの際に、341 名のニューヨーク市の消防士が死亡し、数百人の消防士が負傷した。以前行われた WTC 関連の研究でうつ病と PTSD の共存が非常に高いことが指摘された。関係因子として負傷による退職、飲酒、WTC への現場への早期到着が報告された。しかしながら、これらの研究は、共存症へつながる危険因子の評価はしていない。より共存症を理解するための努力の過程でそれぞれの状況に応じたユニークな危険因子を明らかにした。</p> <p><b>方法：</b>            WTC 事件に関連した退職消防士に自己式質問紙、疫学研究センターのうつ病スケール、PTSD のチェックリスト、アルコール乱用確認テストを使ってスクリーニングをした。高度のうつ病の PTSD の予測因子を比較するために、回帰分析をし、仲介仮説の検定もした。</p> <p><b>結果：</b>            2005 年 12 月から 2007 年 6 月までの調査で、1,915 人の退職者のうち 23% が高度のうつ病、22% が PTSD、共存症が 70% 以上であった。（1）うつ病はアルコール乱用と（2）PTSD は現場への早期到着がユニークな危険因子を特定した。</p> <p><b>結論：</b>            PTSD とうつ病はユニークな危険因子を有する外傷に対する異なる反応である。現場への早期到着とうつ病は PTSD が介在しており、飲酒と PTSD はうつ病が介在している。臨床医はうつ病と PTSD の患者を評価する場合には、これらの因子を考慮すべきである。</p>	